名古屋学院大学論集　言語・文化篇　第28巻　第2号　pp. 71-92

〔論文〕

基本動詞「持つ」の多義分析

有　薗　智　美

名古屋学院大学外国語学部

要　旨

日本語の動詞の「持つ」は，使用頻度の高い基本動詞であり，また複数の意味を表す多義語である。「荷物を持つ」のように，物理的物体を手に収めるという具体的な身体動作から，〈所有〉（「別荘を持つ」），〈負担〉（「費用は会社が持つ」），〈管理〉（「高齢の親を持つ」），〈性質・状態の保持〉（「彼女は才能を持っている」「新たな機能を持つ商品」）など，様々な意味に派生している。本稿では，多義語「持つ」の複数の意味を明らかにしたうえで，それらの複数の意味の関連性を考察し，「持つ」の多義ネットワークとして提示する。

キーワード：意味拡張，多義語，基本動詞，多義ネットワーク

Semantic Analysis of a Polysemous Word: A Case of a Common Japanese Verb *Motsu*

Satomi ARIZONO

Faculty of Foreign Studies
Nagoya Gakuin University

本稿は，国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクト「述語構造の意味範疇の不変性と多義性」にて作成されている『基本動詞ハンドブック』（http://verbhandbook.ninjal.ac.jp/）において，筆者が執筆を担当した『持つ』を修正・加筆したものである。

発行日　2017年3月31日

1. はじめに

動詞の「持つ」は，文体や発話の場面等を問わずに日常的に頻用される語であり[1)]，国語教育および日本語教育において，学習者が初期の段階で学習する基本動詞の一つである（国立国語研究所1984，2009）。以下の例を見てみよう[2)]。

（1）a. 緊張でマイクを持つ手が震えた。
b. 健康な歯を持つことが，長生きの秘訣です。
c. この仕事は私が責任を持ってやり遂げます。
d. 認知症の親を持つ。
e. 偏見を持っている人とは友達になりたくない。
f. 両者の間で話し合いが持たれた。
g. 彼らの結婚生活は三年ともたなかった。

（1a）は身体部位の手または指を使って物理的物体を手に収めるという身体動作を表しているが，（1b）–（1g）は身体動作とは異なる意味をそれぞれ表す。また（1g）の「持つ」は，本来の他動詞としての用法ではなく自動詞として用いられている。このように基本動詞「持つ」は複数の意味と用法を持つが，（1b）–（1g）は（1a）と何らかの点において関連しているように思われる。なお，相互の関連付けが可能な二つ以上の意味を有する語は「多義語」と呼ばれる（国広1982など）。本稿ではまず，2節で「持つ」の先行研究と意味拡張を支えるプロセスについて確認し，それに基づき3節で意味の分析を行い，身体運動としての「持つ」の意味から，どのように複数の意味が派生しているかを示す。4節では，「持つ」の複数の意味の関係を多義ネットワーク図として示す。

2. 先行研究

2.1 「持つ」の意味

「持つ」は現行の辞書類において複数の意味の記述が行われているが，それらの意味の関連性は示されていない。また，森田（1989: 1134–1137）では，「持つ」について詳細な記述がなされており，文型における制約を明示している点で参考になるが，やはりその動機付けが示されていないものも多く，また辞書類と同様，複数の意味の関連性が示されていない。

一方国広（2006）は，『明鏡国語辞典』に記述されている「持つ」の意味を，基本義（〈保持〉）を出発点とした多義体系図の形で示している（図1）[3)]。国広（2006）によると，「持つ」の派生義は大きく二つに分けられる。それらのうち一方は「保持」が一般化され，抽象化されていく方向をたどるもの」であり，もう一方は「「保持」という具体的な動作を色々と異なった角度から眺め，その一部分を焦点化するかたちで生じるもの」である（国広*ibid.*: 267）。

また，森山編（2012）は，日本語学習者に向けた「持つ」の意味記述を行い，〈手で物を取る•握る〉

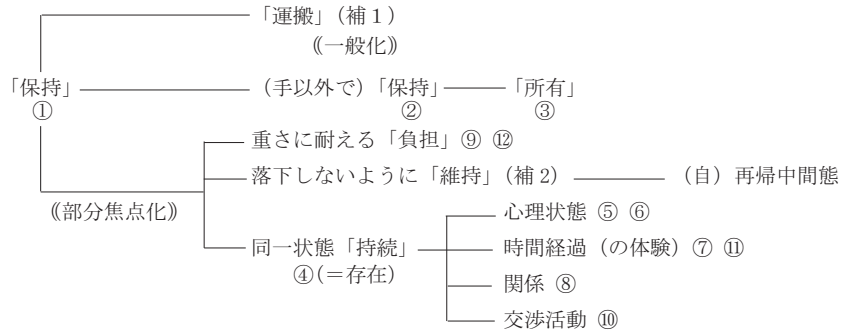

図1　国広（2006: 269）「もつ」の多義体系図[4)]

ことを出発点としたネットワークを示している。森山編（*ibid.*）には,「学習辞典という性格上，主要なものをできるだけ簡略化して平易に図示した」（p. 4）とあり，記述に含まれていない用例（とその意味）の存在を認めながら，記述したものについては，ある意味が別の意味とどのように関連しているかを明示している。ただし，中心義，一次派生義，二次派生義に分け，二次派生義は「意味変化が比較的小さく，独立した派生義として扱うには及ばない」ものであるとしているが，この点については根拠が不明である[5)]。

国広（2006）および森山編（2012）の記述はおおむね妥当であると思われ，また複数の意味の関連性を示している点で参考になるが，その一方で，国広は『明鏡国語辞典』の意味記述に基づいているという点，また森山編では学習者向け辞典を目的として記述が簡素化されているという点で，複数の意味の関連性についてより詳細な分析が必要であるように思われる。例えば，国広（2006）は「持つ」に〈交渉活動〉の意味を与え,「交渉の場を持つ」がこれに当たるとしているが，コーパスでは以下の例のように〈交渉の場〉と考えられない要素とも共起し，関連した意味を表していると思われる。

（2）各地で共通することは，社会のマイノリティとして<u>発言の場をもたなかった</u>人々からの運動であり，アメリカと共通する点も多い。（小野善邦編『放送を学ぶ人のために』，2005, 699）

（3）ゲーテ自身は一方ではダルムシュタット・サークルで感傷主義の社交に参加しながら，同時に『フランクフルト学芸新聞』に拠って「疾風怒濤」の評論を書き，新たな脱皮への道を進んで行くことができた。しかし女性たちにはそのような<u>情緒的釣り合いをとる場を現実にもつ</u>ことは拒まれていた。（星野純子著『ゲーテ時代のジェンダーと文学』，2005, 940）

（2）の「発言の場」,（3）の「情緒的釣り合いをとる場」などは,〈交渉活動〉とは言いがたく，これらを含む別のラベルを考える必要があるだろう。また,森山編（2012）では中心義として〈手で物を取る〉と〈握る〉が同じ意味にまとめられているが，これらの意味は一つにまとめるのに

は問題があるように思われる。もちろん,「かばんを持つ」といった場合には,〈手でかばんを取る〉ことと〈かばん（の取っ手）を握る〉ことの両方の行為が関わる。しかし,「手すりを持つ」や「ハンドルを持つ」といった場合には,〈握る〉ことのみを表し,「手すり」や「ハンドル」を〈手で取る〉（手のひらでそのものの重量を支える）ことはできず，厳密には〈手で物を取る〉ことと〈握る〉ことは異なる行為である。したがって,両者は別の意味として提示する必要がある。

さらに，現代日本語のコーパスにおいて実例が認められ，かつ日常的に用いられるような「持つ」の以下の用例は，どちらの先行研究においても扱われていない。

（4）<u>褐色の羽根をもつ</u>鳥と言えば,ツグミしか思い当たらない。(塩山千仞著『ワーグナー紀行』, 2004，762）

（5）<u>麻薬，アルコール常習の親を持つ</u>子供は，自らも常習者となりやすい。（ホーン川嶋瑶子著『女たちが変えるアメリカ』，1988，367）

本稿では，コーパスにおいて確認できる共起要素，特に「持つ」の対象として現れる要素（典型的にはヲ格要素）を観察し,上記の例の「持つ」の意味も含め,基本動詞「持つ」を分析する。またそれらの複数の意味を明示したうえで，その意味の関連性を多義ネットワークとして示す。

2.2　意味拡張の仕組み

ある表現（語•句•文）が本来の意味とは別の意味を表す際，そこには動機付けが認められる。その動機付けとは，本来の意味と実際の意味が表す二つの事物の間の何らかの関係であり，特に「二つの事物の類似性」,「外界・思考内における二つの事物の関連性」，そして「二つの事物の類種関係」が比喩表現の成立には大きな役割を果たしていることがこれまでに明らかになっている。この三種の関係に基づく比喩表現を生み出す仕組み（認知プロセス）はそれぞれ,「メタファー」,「メトニミー」,「シネクドキー」と呼ばれる。本稿では,籾山•深田（2003）の以下の定義に従い，これを基に複数の意味の関係を明らかにする。

メタファー：　2つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて，一方の事物・概念を表す形式を用いて，他方の事物・概念を表すという比喩。(p. 76)

メトニミー：　2つの事物の外界における隣接性，さらに広く2つの事物・概念の思考内，概念上の関連性に基づいて，一方の事物•概念を表す形式を用いて，他方の事物•概念を表す比喩。(p. 83)

シネクドキー：より一般的な意味を持つ形式を用いて，より特殊な意味を表す，あるいは逆により特殊な意味を持つ形式を用いて，より一般的な意味を表す比喩（p. 79）

3.「持つ」の意味

語義1（基本義）：〈人・動物がものを手に収める〉

まず，以下の例を見てみよう。

（6）マイクを持つ手もガタガタ震え，言葉も容易に口を出て来ない街頭演説。（平松伴子著『この町が好きだから』，2001，213）

（7）たまごに好きな色を下塗りします。指でもっている部分を3分の1残してぬります。（石田繁美編『家族で楽しむ日本の行事としきたり』，2005，386）

（8）餌をあげると前脚で上手に持って，口まで運びます。（『リスを正しい知識で飼育する方法！リスの選び方のコツや裏技も紹介』）[6)]

この意味の「持つ」は「〈人•動物〉が〈もの〉を持つ」という形で，手を使って物理的物体を取り，それを手の中に収めて維持することを表し，そのものをコントロールできる状態にすることを含意する。典型的には手（手のひら）を用いて対象を維持するが，（7）のように指を用いて対象を維持する場合にも用いられる。また，主体は〈人・動物〉であるが，〈動物〉である場合には，その主体は人と同様に指でものを握ることのできる霊長目（サル，ゴリラなど）であり，この場合「持つ」を問題なく用いることができるが，他に（8）や，「猫がササミを手に持つ」や「パンダが笹を持っている」のように，両前脚にものを挟んで対象を維持している場合にも，前脚が手に見立てられて「持つ」を用いることが可能になることがある。

一方で，この意味の「持つ」は，典型的には対象を手の中に収めてそれを維持することを表しているため，対象の着点はあくまでも「手」である。

（9）かばんを手｛二本の指／?肩／*背中｝で持つ。

したがって，手の一部である「指」や「腕」を用いて対象の重量を支える場合にも「持つ」が可能であるが，「肩」になるとやや不自然になり，手とは異なる身体部位と捉えられる「背中」や「頭」などには用いられない。

語義2：〈人・動物がものを握る〉

次に，以下の例では，「〈人•動物〉が〈もの〉を持つ」という形で，〈人•動物がものを握る〉という意味を表している。

（10）足腰が弱っているかたや階段に不安を感じる場合は，手すりをもって上り下りするのも方法です。（岩手県社会福祉協議会ずっぱりボランティアいわて：ボランティアを始めるために／手引き誘導編，TWC）

（11）ハンドルを持つ手が私の意志とは無関係に震えている。（小野清春写真/文『消えゆく茅葺き民家』，2002）
（12）線路の振動や蒸気機関の動きが伝わってくる。レバーを持つ自分がこのSLを運転している実感がある。（DIME（ダイム），2003，一般）

この意味の「持つ」は，対象であるものを手で握ることを表しており，これは語義1からのメトニミーによる拡張であると考えられる。語義1はものを握って手に収めることを表すため，手で対象であるものの重量を支える状態になるが，語義2では〈握る〉ことに焦点が当たっており，語義1のように対象であるものの着点は手のみに限定されないため，ものの重量を手で支える必要はない。それゆえ，(10)–(12）から分かるように，対象が手の中に収まっているかあるいは「かばんを持つ」のように対象の一部を手でつかんでその対象の重量を支える状態でなくても良い。

さらに，以下の例を見てみよう。

（13）「失礼します」と言いながら室内に入り，ドアノブを左手で持ち，ドアを押して入室。（フロム・エー社員ナビ｜求人・転職・仕事情報，TWC）

（13）では，ドアノブはドアにくっついた状態であり，主体の手の中に収めてそれを移動させて別の場所に置いたりはできないが，握った状態で押したり回したりするなどの働きかけを行うことはできる。このように，この意味の「持つ」は〈対象への働きかけ〉が含意され，手（指）が直接働きかける部分が対象になる。

（14）机のへり｛*机｝を持って立ち上がる。

（14）において〈握る〉という意味で「机を持つ」と言えないのは，それが手で握ることにより対象に直接働きかける部分とはみなされないためである。

語義3：〈人がものを携帯する〉

さらに「持つ」は，「〈人〉が〈もの〉を持つ」という形で，〈人がものを携帯する〉ことを表す。

（15）クレジットカードは，1～2枚あれば十分。カードをたくさん持つのはよくありません。（荻原博子著『女25歳からの「お金」の本』，2002，591）
（16）店を出ると冬の冷たい雨が降っていた。傘を持っていないのでコートの襟をたて早足で歩いた。（塩山千仞著『ワーグナー紀行』，2004，762）
（17）緊急連絡にそなえてTATFの全員にポケットベルを持たせてある。（田中光二著『警視庁国際特捜隊』，2001，913）
（18）「ふむ，悪い考えじゃないな。いくら持ってる」「ペセタでいえば，ざっと百万ほどだ」（逢

坂剛著『熱き血の誇り』，2002，913）

（19）また，国際免許証を取得しなくても，日本の免許証の翻訳証明書とパスポートを持っていれば運転は可能だ。（シニアライフ研究会編『年金をもらってシニアライフは海外で！』，2004，302）

以上の例の「持つ」の対象は，語義1と同様に物理的物体であるが，対象を手に収めることではなく，その対象を携帯することに焦点が当たっている。そのため，ものを手で握っている状態でなくても良い。（15）-（19）のカード，傘，ポケットベル，お金，書類などは，実際にそれらを手に収めている必要はなく，かばんの中やズボンのポケットなどに入っている状態でも「持つ」と言える。

この意味の「持つ」は，語義1の〈ものを手に取り，それを手の中に収める〉ことからさらに進んで，〈ものを携帯する〉ことを表している。ものを携帯する際には，典型的にはそのものを手に取る。したがって，語義3の「持つ」は語義1の「持つ」と時間軸上連続して起こるため，後に起こる事態を，それより前に起こる事態を表す形式によって表現しており，これはメトニミーによる拡張である。

ただし，この意味の「持つ」は実際には対象を手に収めていない場合にも用いられるが，その対象は，身に着けるものであっても基本的には手に取って携行することのできるものに限られる。

（20）帽子をかぶって｛*持って｝くるのを忘れた。

したがって，（20）の「帽子」のように，履いたりかぶったりするなどして身に着ける場合には「持つ」は用いられない。もちろん，着用したものとは別にかばんなどに入れて携行することを表す場合には「帽子を持ってくるのを忘れた」，「替えのTシャツを持っていない」などのように，「持つ」を用いることができる。

語義4：〈人・動物が特徴的な身体部位や傷を身体に有する〉

語義1～3で見てきた「持つ」の対象は，実際に手に取り手のひらに収めることのできる物理的物体であったが，次の例における「持つ」の対象は，物理的物体でありながら手に取ったり手から放したりすることはできない。

（21）私たちは健康でありたいと思い，強靱な身体を持ちたいと願い，精神的にも強くありたいと考える。（村椿嘉信著『喜びの大地』，2003，193）

（22）西郷さんは色白で眉毛濃く黒目がちの大きな瞳を持った雄渾な美丈夫だった。（南伸坊構成・文『歴史上の本人』，1997，281）

（23）彼は，ハイチ生まれのアメリカ人で黒い肌を持っている。（山田詠美著『24・7』，1997，913）

（24）このシカは，奇形の角とおなじ側のまえ脚に銃撃による傷をもっていた。（Ernest Thompson Seton著；今泉吉晴監訳『シートン動物誌』，1998，482）

（25）タチウオには，きばのように先端が鋭くとがった歯をもつものと，かぎ針のように先端にもどりのついた歯をもつものとがあり，両者は別種だという意見がある。（荒垣秀雄編『四季の博物誌』，1988，462）

（26）スマトラサイは鼻の上に2つの角をもっている。（安間繁樹著『ボルネオ島アニマル・ウォッチングガイド』，2002，482）

（27）褐色の羽根をもつ鳥と言えば，ツグミしか思い当たらない。（＝2）

これらの例における「持つ」は「〈人・動物〉が〈身体部位・傷〉を持つ」の文型で，〈人・動物が特徴的な身体部位や傷を身体に有する〉ことを表している。この意味は，ものを身に着けるという点で，〈ものを携帯する〉ことを表す語義3と類似しており，語義3からのメタファーによる拡張であると言える。一方で，語義3の対象は，外界に存在する「携帯電話」や「財布」などの物理的物体であり，語義4の対象は当該の人や動物にもともと備わっている身体部位や，身体において生じた傷などであり，この点が異なる。

語義3の「持つ」は，主体である人間が別の物理的存在（携帯電話や財布など）を携行することを表すため，自分の一部としてもともと備わっているもの，例えば自分の耳に対して，「私は耳を持っている」とは言わない。これと並行して，語義4の「持つ」においても，全ての人間にもともと備わっている部位に対しては用いられず，当該の人物や動物などだけが何らかの働きかけによって手に入れたかのような，〈特徴的な身体部位〉や〈傷〉に用いられる。そのため，対象である身体部位はその「特異性」を表すために，必ず修飾要素を伴う。

（28）a. 彼は，ハイチ生まれのアメリカ人で黒い肌を持っている。（＝23）

b. *彼は，ハイチ生まれのアメリカ人で肌を持っている。

一方，（26）の「角」，（27）の「羽根」や，以下の「牙」などは，修飾要素がなくても良い。

（29）憑くといわれている動物は，どれも悪知恵が働き，ずる賢く，おまけに執念深そうなものばかりに思われた。また，牙を持ち，怒らせると獰猛になるという点でも一致しているかもしれない。（明野照葉著『憑流』，2001，913）

これは，「角」や「牙」，「翼」などは人間にはないものであり，修飾要素によって限定しなくとも人間にとっては十分に「特徴的」であるためだと考えられる。

語義5：〈人が物事を自分のものとして有する〉

さらに「持つ」は，物理的物体ではあるが手に取って重量を支えることのできない対象についても用いられる。

(30) ほんと，良いお友だちを持って羨ましいわ。(山下勝利著『いまさら，初恋』，1990，913)

(31) 林田ひろ子は，六本木に，店を持っていた。(西村京太郎著『特急「あさしお3号」殺人事件』，1988，913)

(32) 当然ながら，それぞれに親兄弟があり家族をもっている。(戸部新十郎著『前田利家』，2001，913)

(33) 父親は，元老院に議席をもつどころか軍団退役後はスイスへ行って金貸し業をやっていたらしい。(塩野七生著『危機と克服』，2005，232)

(34) 女性だって，地位とお金を持った男が好きでしょう。(渡辺淳一著『懲りない男と反省しない女』，2005，914)

(30)-(34) では，「〈人〉が〈物事〉を持つ」の形で，〈人が物事を自分のものとして有する〉ことを表す。この意味は，対象を手の中に収めてそれを維持すること表す語義1と類似しており，メタファーによる拡張である。我々は，対象を手の中に収めることによって，それを移動させたり潰したり投げたりするなど，対象をコントロールすることができる。同様に，この意味の「持つ」は，対象を自分のもの（コントロールできるもの）として所有することを表している。語義1の対象は「ボール」や「かばん」などの物理的物体であるが，この意味の「持つ」の対象は，「店」，「財産」，「友達」など，物理的物体ではあるが実際には手で持つことのできないものであり，また多くは自分の財産となるようなものに限られる。また，語義1が対象を手に収めてそれを維持することを表すのと同様，この意味の「持つ」においても，対象を一定期間自分のものとすることを表している。

ここで，以下の例を見てみよう。

(35) a. 彼は莫大な財産 {*借金} を持っている。
　　 b. 彼は莫大な財産 {借金} を抱えている。

前述の通り，この意味の「持つ」の対象の多くは自分の財産となるようなものであり，マイナスの対象を取らない。「財産」と「借金」はどちらも実際には手に取ることができず，また金額として表すことのできるものであるという点では同様だが，「借金」は自らの意志で所有してコントロールできるとは言いにくく，(35a) のように「持つ」を用いるのは不自然である。似たような表現として (35b) の「抱える」があるが，この場合，字義通りには，〈(手や指だけでなく，対象を囲むように腕を回して) 胸に収める〉ことを表しており，手で持つことのできるものよりも大きいものに対して用いられることから，〈負担の大きいものを自分のものとする〉という意味を比喩的に表し，「借金を抱える」のように用いることが可能になる。また，「抱える」の場合には「借金」だけでなく「財産」も可能であるが，「財産を抱える」は「財産を持つ」と比較して管理の大変さが含意される。なお，この「抱える」とより関連が深いと思われる意味に，次の

語義6がある。

語義6：〈人が物事を負担する〉

「持つ」は，語義5の〈人が物事を自分のものとして有する〉からさらに進んで，「〈人〉が〈物事〉を持つ」の形で〈人が物事を負担する〉という意味に拡張する。

（36）トルーマンは『決断力のある大統領』をめざし，最終決定はすべて，私が下すと宣言しているのです。すべての責任は，自分が持つと。（高嶋哲夫著『トルーマン・レター』，2001，913）

（37）私は公立学校の先生の倍近く授業を持っています。（高橋いづみ著『ハートで古文を読む方法』，1990，910）

（38）たけしが六本も七本も番組を持つということは，その分，ほかの芸人は仕事を奪われることになるわけです。（北野大著『されど，たけしの兄です』，1998，289）

（39）図書館が書店と決定的に違うのは，貸し出した図書（資料）は戻ってくるということである。これは図書館が資料保存という任務をもっているからである。（大澤正雄著『公立図書館の経営』，2005，013）

（40）営業に使う車は会社所有なのが普通だが，社員個人の車を使う方法がある。仕事でかかった費用は会社が持つという“払戻しプログラム”だ。（木村恵子著『アメリカ発ニュービジネス特選200』，2003，335）

(36)-(40) の「持つ」は，主体である〈人〉が対象である〈物事〉を引き受けることを表しており，対象である物事を自分のもの（コントロールできるもの）とすることを表す語義5からメトニミーにより派生した意味であると考えられる。というのも，対象を引き受けるということは，自分の意志によってコントロールすることであり，これは，自分のものとする（語義5）ことによって，それをコントロールする（語義6）という，原因と結果の関係にあるためである。

なお，語義5で述べたように，類似表現として「抱える」がある。「抱える」は前述の通り，字義通りには〈（手や指だけでなく，対象を囲むように腕を回して）胸に収める〉ことを表しており，手で持つことのできるものよりも大きいものに対して用いられることから，〈負担の大きいものを引き受ける〉という意味を比喩的に表す。また，単に手でものを持った場合にはそのものを操ったりそのものを持ったまま別のことをしたりすることが可能だが，大きいものに腕を回して抱えた場合には，そのものを思うように操ったり，そのまま別のことをしたりすることは困難である。したがって，「持つ」と「抱える」のどちらも〈自分のものとして引き受ける〉という意味を表すことが可能だが，「抱える」を用いた場合にはその負担が「持つ」で表されるよりも大きく，またそれによって他のことができないことを含意する。

（41）a．私は一コマだけ授業を持っています。（＝37改変）

b. *私は一コマだけ授業を抱えています。

そのため，(41b) のように，負担がそれほど大きくないと考えられる物事に対しては，「持つ」とは言えるが「抱える」とは言えない。

語義7：〈人が人を管理する〉

語義6では，「持つ」は〈人が物事を負担する〉ことを表し，対象のコントロールが含意されていると述べたが，以下の例文でも同様に，対象のコントロールが含意される。ただし語義6とは異なり，対象は〈物事〉ではなく〈人〉である。

(42) 源頼光は，渡辺綱・坂田公時などの四人の無敵の部下を持つことで，最強の将軍となった。(島内景二著『歴史小説真剣勝負』，2002，910)

(43) 如心斎は書状を握りしめて飛び跳ねた。大勢の弟子を持ち，茶の道を厳しく追求する四十男とは思えぬ喜びようだった。(井ノ部康之著『利休遺偈』，2005，913)

(44) わたしだって，同じ年頃の子供を持つ母親の集まりに参加したりしています。(新津きよみ著『なくさないで』，2002，913)

(45) 容姿・人柄ともに女性にもてないはずがなく，事実，取り引き先のいくつもの会社に女性ファンを持ちながら，口を開くと，わざと哀れっぽさを装って言うのだった。(藤堂志津子著『やさしい関係』，1998，913)

(42)-(45) の「持つ」は「〈人〉が〈人〉を持つ」の形で〈人が人を管理する〉ことを表す。この意味の「持つ」は，人を自分の責任において引き受ける（物理的・精神的に管理する）ことを表し，対象である物事を自分のもの（コントロールできるもの）とすることを表す語義5からメトニミーによって派生した意味であると考えられる。というのも，対象を引き受けるということは，自分の意志によってコントロールすることであり，これは，自分のものとする（語義5）ことによって，それを管理する（語義7）という，原因と結果の関係にあるためである。なお，〈人が物事を負担する〉ことを表す語義6も，同様に語義5から原因と結果の関係に基づき派生したと考えられるが，語義6の対象が〈物事〉であるのに対して，語義7の対象は〈人〉であり，対象をコントロールする状況の中でも特に〈(人の) 面倒を見る〉ことを表す[7]。

なお，この意味の「持つ」は主体が対象をコントロールする関係にのみ用いられるため，(46) のように「子を持つ」は言えるが，「親を持つ」のようには言えない。

(46) a. 彼女は，二人の子を持つ母親だ。

b. *彼女は，二人の親を持つ娘だ。

ただし，以下の (47) にも示されるように，「高齢の親」など，管理が必要な対象であれば目

上の者に対しても用いられる。

（47）麻薬，アルコール常習の親を持つ子供は，自らも常習者となりやすい。（＝3）
（48）高齢の｛認知症の／一人暮らしの／病気の｝親を持つ。

同様に修飾要素を伴う場合でも，「元気な親」のように，主体による管理が必要とされない場合は「持つ」を用いることはできない。それに対して子供はそれ自体主体の管理が必要な存在であるため，修飾要素を伴わず「子を持つ」と言うことも，「しっかりした子を持つ」と言うこともできる。

（49）しっかりした子｛*親｝を持つ。

ここでさらに，以下の例を見てみよう。

（50）a. 良い両親を持ってよかった。（楽しく生きる，振り返ると道が，TWC）
b. 理解のある上司を持って私は幸せであった。（運転免許全種取得　体験記 プロフィール，TWC）

「病気の親」以外でも，（50a）の「良い両親」や（50b）の「理解のある上司」のように，目上の者を対象として「持つ」を用いることもできる。しかしこの場合の「持つ」は，〈世話•管理する〉という意味ではなく，〈（財産として）所有する〉というようなプラスの意味を表し，これは語義5に当たる。

語義8：〈人が性質・状態を有する〉

ここまでで見た「持つ」の意味は，実際に手に収められるか否かは別にして，物理的物体であった。一方で以下の「持つ」の対象は〈性質・状態〉という抽象的存在である。

（51）大切なのは，聞く耳を持つこと。（『ひとりっ子のしつけと育児』，1993，379）[8)]
（52）それなりの節度をもって，最低限の敬語は使いこなしたいものです。（田中浩史著『ナースのための実践会話術』，2004，492）
（53）だが，ルースは打者としても並外れた素質を持っていた。（日本雑学研究会著『ザ•メジャーリーグ』，2005，783）
（54）花は一部のアレルギーを持つ人を除いてほとんどの人の心を癒す力を内在させている。（短歌，2002，文学／芸術）
（55）好奇心・探究心が強く，世間の情報を広く教養として持っている人（神立春樹著『大学図書館の在り方を追って』，2005，017）

（56）正彦君は，躰に病気を持って生まれてきました。（上條さなえ著『子どもの言葉はどこに消えた？』，2001，367）

この意味の「持つ」は，「〈人〉が〈性質・状態〉を持つ」の形で，〈人が性質・状態を有する〉という意味を表す。これは，人が物事を自分のものとして一定期間所有することを表す語義5と，人が対象を自分のものとして一定期間有するという点で類似しているため，語義5からメタファーにより意味が拡張していると考えられる。語義5における対象も,「別荘」や「友達」など，実際には手の中に収めることのできないものであり，この点でも共通しているが，一方でこの意味の「持つ」の対象は物理的物体ではなく〈性質〉や〈状態〉であり，語義5よりもさらに抽象度が高い。また,この意味の「持つ」は,主体が外界に存在する対象を所有物とするのではなく，主体の内部にある性質や状態を一定期間有することを表している。対象となる〈性質•状態〉は，時間とともに変化しうるが，一定期間継続する性質・状態でなければならない[9)]。

なお，これまで見てきたように「持つ」は対象のコントロールが含意されるため，この意味においても「持つ」の対象は主体がコントロールできるものでなければならない。

（57）a. *彼は仮死状態を持っている。
　　b. 彼は仮死状態である。

（57）の「仮死状態」は主体がコントロールできるものではないため「持つ」を用いることはできない。

語義9：〈ものが性質・状態を有する〉

さらに，以下の例を見てみよう。

（58）食材には，効能をもつ一方で，多少の副作用や毒性をもつものもある。（徳井教孝ほか共著『薬膳と中医学』，2003，498）

（59）茜色に染まる空と真珠のような輝きを持つ街。（神谷すみ子著；神谷典夫写真『自転車ふたり旅』，2004，293）

（60）その結果，ドアにボリュームを与え全体に丸みを持たせたフォルムになった。（AUTO CAMPER，2003，機械）

（61）それならばそう平たくいえばいいのに，綾子のせいでやむなく解散せざるを得なくなったような含みを持たせたのは卑怯だと綾子は思った。（宮尾登美子著『朱夏』，1998，913）

（62）しかし，鎌倉は首都として決定的な欠陥を持っていた。（竹村公太郎著『土地の文明』，2005，291）

（63）おなじような光沢をもつ材料なら，いくらでもあるはずだ。（那須正幹著『夕焼けの子ど

もたち』，1990）

この意味の「持つ」は，主体が性質や状態をその内部に有するという点で，人がある性質や状態を有することを表す語義8と類似しているため，語義8からメタファーにより生じた意味であると考えられる。一方語義8の主体は〈人〉であるが，語義9の主体は〈もの〉であるという点で異なる。

なお，ある活動が継続的に行われる場合はその活動の継続状態に「持つ」を用いることがあるが，一度きりの活動や継続しない状態には「持つ」を用いることはできない。

（64）このコンピュータープログラムは，特定の活動状態 {*活動} を持っている。
（65）強い {*一瞬の} きらめきを持つ宝石

（64）の「活動状態」とは，「状態」という語が示す通り，一度きりの活動ではなく，その活動が継続している状態である。（65）の「強いきらめき」は，その場で観察される様態を表すのではなく，宝石の〈性質〉を表している。したがってこれらは「持つ」と言えるが，一度きりあるいは一瞬しか観察されない「活動」や「一瞬のきらめき」に対しては「持つ」とは言えない。ここでも，「持つ」の基本義から引き継がれる〈保持〉の含意が認められる。

語義10：〈人が思考・感情を有する〉

次の例の「持つ」は，「〈人〉が〈思考•感情〉を持つ」という形で，〈人が思考•感情を有する〉という意味を表す。対象は〈思考・感情〉であり，これは語義8の対象である〈性質・状態〉と同様ではあるが，より特殊なものである。

（66）凛々しさが引き立つ感じだし，聡明で理知的な印象を受ける。面接官にもきっと好感を持たれるよ（六堂葉月著『ケダモノは甘く招く』，2004，913）
（67）イチローはその中で武士道の感覚に近い覚悟を持って生きているのではないだろうか。（児玉光雄著『松井秀喜・イチローに学ぶプロフェッショナル・シンキング』，2004，159）
（68）大井は，明子の生き方に関心を持った。（藤堂志津子著『恋人よ』，1992，913）
（69）これにはいくつかの原因があるでしょうが，多くは，女性は“腰掛け”だとか，女性は論理的思考ができないとか，女性に対してなんらかの偏見を持っているからでしょう。（堀田力著『堀田力の「おごるな上司！」』，1994，336）
（70）「アイデアを持った技術者は，その実現に必要な資金を会社から提供される」（上前淳一郎著『人・ひんと・ヒット』，1990，675）
（71）私は，決して沼田さんに悪い印象をもっていない。（浜なつ子著『マニラ行きのジジババたち』，2002，334）

この意味の「持つ」は，主体である人がその内部にある状態を有するという点で，語義8と同様である。一方で，語義8の対象は状態や性質であるが，この意味の「持つ」の対象は，より特殊な〈思考〉や〈感情〉などの精神状態に限定されている。したがって，より一般的な意味からより特殊な意味へと，語義8からシネクドキーにより意味が拡張している。

ここで，以下の例を見てみよう。

（72）今回の報道に対して，いやな気持ち｛*気分｝を持った。

「持つ」は「気持ち」とは共起できるが，「気分」とは共起できない。これは，これまで述べてきたように，「持つ」は対象を自らの意志によって手に取り，それをコントロールできる状態にすることを含意するためである。加藤（2012: 132）は，「気持ち」の意味を分析し，それと類似した意味を表す「気分」と比較して，「気持ち」の方は「具体的な要因がなくても，漠然とした理由によって引き起こされる心の状態を表すことができない」と述べている。つまり，「気持ち」は主体が明確な認識によって対象に対して自ら抱く感情であるため，コントロール可能であり，一方「気分」は，外的な影響や身体の生理現象によって引き起こされる漠然とした心身の状態を表し，「気持ち」と比べて主体によるコントロールが難しいと言える。そのため「気持ちを持つ」は可能だが，「気分を持つ」とは言いにくい。

さらに，この「持つ」の意味は，主体である人が，その内部に，ある状態を一定期間有するという点で語義8と類似しており，対象となる〈状態〉は，（時間とともに変化しうるが）一定期間続く状態でなければならないという点も同様である。したがって，この「持つ」の対象である〈精神状態〉も，コントロール可能で一定期間続くものでなければならない。

（73）*上司に驚き｛怒り｝を持つ。
（74）上司に恨み｛不信感｝を持つ。

語義11：〈人が機会を設ける〉

次に，以下の例を見てみよう。（75）-（78）は，語義8から拡張した語義9と語義10同様，抽象的な事物をコントロール可能な状態で有するという点では同様だが，〈一定期間継続する状態や性質〉を対象としないという点で，語義8～10とは異なる。

（75）陳情書を提出したあと，二十日には再度県の廃棄物対策課と話し合いをもった。（木戸田四郎著『水源を守る市民運動』，1997，519）
（76）株式投資も恋愛と同じです。良い相手に会える機会を持たなければなりません。（ヨーコ・ミヤザキ著『お金持ちになれるヒント！』，2002，338）
（77）自分が住んでいる地域の脳神経外科医と普段から，なんらかの接触を持っておくことをお勧めする。（天野恵市著『そこが知りたい「脳の病気」』，2005，493）

（78）また労働条件に関しましては団体交渉を十分に持ちたいと思います。（国会会議録，1986，常任委員会）

これらの例では，「〈人〉が〈機会〉を持つ」の形式で〈人が機会を設ける〉という意味を表す。これは先ほど述べたように，人が抽象的事物をコントロール可能な状態で有するという点で語義8と類似しているため，メタファーによる意味の拡張である。一方で，この意味の「持つ」の対象は，上記の例の「話し合い」，「機会」，「接触」，「交渉」など，語義8と同様実際には手の中に収めることのできないものでありながら，語義8のように一定期間持続する性質・状態ではなく，〈機会〉や〈場〉という，一度限り，その場限りでも良いものであり，〈持続〉の意味は含意されない[10]。

語義12：〈人・もの・ことが状態を維持する〉

最後に，「持つ」がヲ格を取らずに自動詞的に用いられる以下の例を見てみよう。

（79）たまには休みを取らなきゃ体がもたねえや。（鶴田楡著『ダンス・ウィズ・キャット』，2004，913）

（80）一日のうちにこの時がなかったら，あの親爺殿との生活は一ヶ月ともちそうにない。（塩川治子著『北斎の娘』，2001，913）

（81）だが，趙丹の生命は“四年”しか持たなかった。（石子順著『中国明星物語』，1995，778）

（82）田中がさっき「この天気はあと五日もちますよ」と，あっさり言ったことにも驚いたが，地図にも載っていないこんな集落でさえ，この男の脳裏には記憶されている。（太田尚樹著『満州裏史』，2005，289）

（83）お店で現地集合の合コンは，一番に来ると，間が持ちません。（中谷彰宏著『「みっともかわいい」君が好き。』，2004，159）

（84）桃は傷みやすい。冷蔵庫に入れておいても，長くは持たないのだ。（柴田よしき著『猫は聖夜に推理する』，2002，913）

これらの例では「持つ」は，「〈人・もの・こと〉が持つ」の形で，〈人・もの・ことが状態を維持する〉という意味を表す。前述の通り，「体力が持つ」のようにヲ格を取らずに自動詞的に用いられ，主体の状態が維持されることを表す。これは，主体が性質や状態をその内部に有することを表す語義9と関連している。語義9では，主体である〈もの〉が，対象である〈性質・状態〉を有することを表すが，この意味の「持つ」は，主体である〈人・もの・こと〉が，「自らの状態」をコントロールして維持することを表しており，状態の維持に焦点が当たっている[11]。

この意味の「持つ」では，主体は〈人〉だけでなく「食べ物」や「バッテリー」などの〈もの〉や，「結婚生活」などの〈こと〉も多く現れる。主体がものやことである場合，例えば「食べ物が持つ」など，食べ物が自身の状態をコントロールしているとは考えにくいが，通常放っておくとマイナ

スの状態（食べ物であれば腐り，バッテリーであればなくなる）に自然に変化していくものが，そのマイナスの状態にならないように自らの状態を保っている（コントロールにより維持している）かのように捉えられている。なお，自らの力でなく人の手などの外的要因によって主体がその状態を保つことを表す場合には，それを明示するために以下の（85）のように使役の形で用いるか，（86）のように外的要因をデ格で示す。

（85）いろいろな意見がありました。即座に助けようというのもあり，助けたら安息日にしてはいけない仕事をしたことになるから，穴に落ち込んだ家畜に餌を与えてその日一日命を持たせ，日が暮れて安息日が過ぎ去ったら助けてやればよいという意見もありました。（加藤常昭著『マタイによる福音書』，2004，198）

（86）a. 当人の百合江というのは，近くの，はぜ釣舟屋の主人の娘で，今，高校生ですが，近所で評判の美人でした。［…］釣り好きの人の間では，大変に評判で，これからはあの店は娘で持つだろう［…］という人も多かったのです（胡桃沢耕史著『翔んでる警視正』，1988，913）

b. しかし，あれはやっぱり間違いだった。今の薬で五年以上もつのだ。（石黒美佐子著『死を見つめたわが子麻意の三年』，1993，916）

なお，この「持つ」は状態の維持を表すが，主体がもともとマイナスの状態にあってそれが続く場合には用いられない。

（87）この天気 {*雨} はあと五日もちますよ。（＝82改変）

これは，〈自らの状態を維持してコントロールする〉ということが，上で述べたように，放っておくとマイナスの状態に自然に変化していくものがそうならないように現状を維持するということであるためである。現在の状態がマイナスの状態であれば，敢えてそれをコントロールして維持するということは通常考えられないのである。以上のことから，語義12は，〈状態の維持〉の中でも特に〈良い状態の維持〉に限定されており，それゆえこの意味は語義9からシネクドキーにより拡張していると言える。

4. おわりに

「持つ」は人間の主体的行為であり，例えば「ボールを持つ」という行為は，指を使ってボールを握り，ある場所から取り上げて自分の手のひらに収める行為である。また，いったん手の中にボールを収めると，それをそのまま手に収めた状態で場所を移動したり，自分のものとしたりすることもできる。また，手の中にあるボールは強く握って潰したり，遠くに投げたりすることもできる。つまり，手の中にあるものに働きかけ，それを我々はコントロールすることができる

のである。本稿では，多義語「持つ」が，このような身体動作を起点として様々な意味に派生することを示した。それにより，「持つ」の複数の拡張義は対象への働きかけやコントロールという主体の意志的行為の意味を保持しており，対象が物理的物体だけでなく実際には持つことのできない抽象的存在であっても，それに対する管理や維持の意味を表すことが分かった。

本稿において明らかになった「持つ」の複数の意味間の関係を以下の図2にまとめる。なお，図中の破線はメタファー，二重の実線はメトニミー，細い実線はシネクドキーによる意味の拡張である。

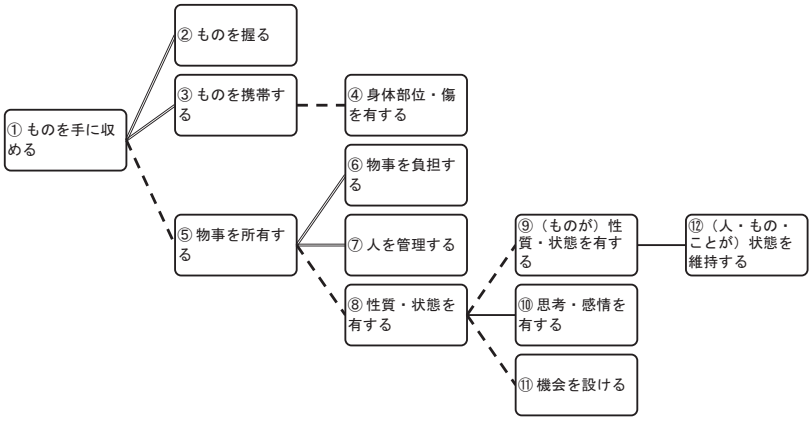

図2 「持つ」の多義ネットワーク

今後は，本稿における分析を基に，手（腕）を用いた身体動作をその基本義として表す「抱える」や，「持つ」と同様に性質や状態の維持を表す「備える」，「保つ」，「帯びる」等との類義分析を行うことで，「持つ」に特有の意味特徴をより詳細に示すことが課題となる。また，瀬戸編（2007: 448–450）における英語の*have*の記述を見ると，物理的物体を手に収めるという身体動作の意味から，属性，知識，感情，義務などの抽象的存在を有することや，状態を維持することを表す意味に派生しており，日本語の「持つ」と同様の動機付けが認められる。一方で*have*はそのような意味を保持しつつも，使役構文や完了構文に現れる*have*など，動機付けは同様のものであってもその拡張事例が異なる場合がある。他の言語との対照分析を行うことにより，人間という存在に共通する行為からどのような意味の広がりを示しているかを見ることで，身体経験を基盤とする外界の捉え方の共通点と相違点を明らかにすることができるだろう。

最後に，本稿は「持つ」の多義分析として，複数の意味を明示し，その関連性を提示することを目的としたが，第1節で述べたように，「持つ」は発話の目的や場面を問わず高頻度で用いられる動詞であり，日本語母語話者と日本語学習者のどちらにとっても重要な語彙の一つである。それゆえ，日本語教育等の分野においても今後応用されることを期待して，分析の際に参照した日本語コーパスを基に，各語義の必須項要素と付加詞要素の例を「コロケーション表」としてまとめ，参考資料として巻末に付す。

注

1）国立国語研究所（2013）「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語彙表ver. 1.0」参照。

2）本稿における例文は，国立国語研究所とLago言語研究所が開発したNINJAL-LWP for BCCWJ（現代日本語書き言葉均衡コーパス）から採集したものが主であり，この場合，例文末に作品名等を括弧書きで示した。また，同じく国立国語研究所とLago言語研究所が開発したNINJAL-LWP for TWC（筑波ウェブコーパス）から採集したものについては，例文末に引用元のwebページとTWCからの採集であることを括弧書きで示した。さらに，検索エンジンGoogleにて採集した例文が一例あるが，これについては例文末にwebページの名称を括弧書きで示し，注にURLを示した。例文末に出典が示されていないものは，NINJAL-LWP for BCCWJおよびNINJAL-LWP for TWCにおいて見られた例文を基にした作例である。

3）本稿では，言語表現の意味やそれに関わる概念を〈…〉で表記する。

4）国広（2006: 269）の図を，紙面の関係上縦書きから横書きに変更した。なお，図中の①～⑫，（補1, 2），（自）は，『明鏡国語辞典』に基づき国広が示した用例の番号である。詳細は国広（2006: 268）を参照のこと。

5）森山編（2012: 489）では例えば，中心義の〈手で物を取る・握る〉（「両手で荷物を持つ」）から，一次派生義の〈手で支える〉（「テーブルの端を持っていてください」）が生じ，さらにそこから二次派生義の〈責任・負担を引き受ける〉（「責任を持つ」）が生じるとしているが，これを見る限り，中心義と一次派生義は身体動作に関わる物理領域に，二次派生義は抽象領域に関わっており，中心義から一次派生義への意味変化と比べて一次派生義から二次派生義への意味変化が「比較的小さい」とは言えない。

6）〈http://fracturez.net/〉（Accessed on: 2017/01/16）

7）語義5，6で述べたように，語義7でも対象に対して「弟子を持つ」，「弟子を抱える」のどちらも言うことができるが，「弟子を持つ」と比較して「弟子を抱える」は負担の大きさ，管理の大変さを含意する。

8）「聞く耳を持つ」の「耳」は，身体部位の耳ではなく，聴覚行為に関わる〈聴力〉（または〈鑑識力〉）を表す（有薗2013）。

9）この意味の「持つ」では，対象のヲ格を取らずに「あいつはもっている」のように表現することがあるが，この「もっている」は〈運がある〉ことを表す。

10）交渉，交流，接触などはそれ自体を〈機会〉として「持つ」の対象に取ることができるが，それ以外の場合，一般的には「～の機会」や「～の場」の形を取る。

（i）a. *成長｛情報交換／活動｝を持とう。

b. 成長｛情報交換／活動｝<u>の機会</u>を持とう。

11）川畠（2013）は，「持つ」が自動詞として〈保持・維持〉の意味を表すのは，動作主と非動作主の一体化が進んで自動性が高まるためであると述べている。

参考文献

有薗智美．2013.「行為のフレームに基づく「目」,「耳」,「鼻」の意味拡張―知覚行為から高次認識行為へ―」『名古屋学院大学論集 言語・文化篇』25（1）: 123–141.

加藤恵梨．2012.「「気持ち」の意味について」『国立国語研究所 第2回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』，pp. 127–134.

川畠嘉美．2013.「動詞「持つ」の自／他動性と認知変化」，『日本認知言語学会論文集』13: 542–548.

北原保雄（編）2002.『明鏡国語辞典』大修館書店．

国広哲也．1982.『意味論の方法』大修館書店．
国広哲也．2006.『日本語の多義動詞 理想の国語辞典Ⅱ』大修館書店．
国立国語研究所．1984.『日本語教育のための基本語彙調査』秀英出版．
――．2009.『教育基本語彙の基本的研究 増補改訂版』明治書院．
――．2013.「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語彙表ver. 1.0」Available:〈http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/freq-list.html〉［Accessed: 2017/01/20］
瀬戸賢一（編）．2007.『英語多義ネットワーク辞典』小学館．
森山新（編著）．2012.『日本語多義語学習辞典　動詞編』アルク．
森田良行．1989.『基礎日本語辞典』角川学芸出版．
籾山洋介・深田智．2003.「第3章 意味の拡張」，松本曜編『認知意味論（シリーズ認知言語学入門第3巻）』，pp. 73–134，大修館書店．

用例

国立国語研究所．『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ）（検索は，国立国語研究所・Lago言語研究所が開発した検索ツールNINJAL-LWP for BCCWJ〈http://nlb.ninjal.ac.jp〉を使用）
筑波大学．『筑波ウェブ コーパス』（Tsukuba Web Corpus: TWC）（検索は，国立国語研究所・Lago言語研究所が開発した検索ツールNINJAL-LWP for TWC．〈http://nlt.tsukuba.lagoinst.info〉を使用）
Google　〈http://www.google.co.jp/〉

参考資料：「持つ」のコロケーション表※

意味と文型	必須項	付加詞
語義1： 〈人•動物がものを手に収める〉 **文型：** 〈人・動物〉が〈もの〉を持つ	**〈もの〉を** 荷物，ボール，バッグ，グラス，鞄	**〈様態〉** いっぱい（に），たくさん **〈着点〉に** 手，右手，両手，左手 **〈手段〉で** 素手，利き手，人差し指，手，両手，片手
語義2： 〈人・動物がものを握る〉 **文型：** 〈人・動物〉が〈もの〉を持つ	**〈もの〉を** つり革，手すり，ハンドル，レバー	**〈様態〉** しっかり，ちゃんと，強く，軽く
語義3： 〈人がものを携帯する〉 **文型：** 〈人〉が〈もの〉を持つ	**〈もの〉を** お金，携帯電話，カード，鍵，ハンカチ，書類	**〈様態〉** 常に，必ず，確かに
語義4： 〈人・動物が特徴的な身体部位や傷を身体に有する〉 **文型：** 〈人•動物〉が〈身体部位•傷〉を持つ	**〈身体部位〉を** 健康な歯，美しい肌，牙，羽 **〈傷〉を** 傷，傷跡	**〈身体〉に** 背中，顔，脛
意味⑤： 〈人が物事を自分のものとして有する〉 **文型：** 〈人〉が〈物事〉を持つ	**〈もの〉を** 車，金，店，土地，資産，会社，口座，家族，親友 **〈こと〉を** 所帯，趣味，仕事	**〈名目〉として** 形見，資産，財産 **〈様態〉** いずれ，いつか，すでに，ようやく
語義6： 〈人が物事を引き受ける〉 **文型：** 〈人〉が〈物事〉を持つ	**〈物事〉を** ①費用：費用，送料，金 ②責任：責任 ③役割：仕事，任務，授業	
語義7： 〈人が人を管理する〉 **文型：** 〈人〉が〈人〉を持つ	**〈人〉を** 子供，弟子，部下，夫，妻，親	

意味と文型	必須項	付加詞
語義8： 〈人が性質・状態を有する〉 **文型：** 〈人〉が〈性質・状態〉を持つ	**〈性質〉を** ①権利，力：権限，力，権利，能力，権力，才能，技術 ②性格：自信，誠意，余裕，信念，勇気，誇り，こだわり，プライド ③性質：性質，素質，資格，性格，雰囲気，傾向，異名，肩書，欠点 **〈状態〉を** ①幸運：運，強運 ②関係：関係，関わり，接点 ③経歴：経歴，経験 ④情報：知識，情報 ⑤病気：病気，アレルギー，疾患，症状	**〈様態〉** もともと，本来，一応，生まれながらにして，すでに，少し，もっと **〈名目〉として** 知識，教養
意味⑨： 〈ものが性質・状態を有する〉 **文型：** 〈もの〉が〈性質・状態〉を持つ	**〈性質〉を** ①性質：性質，特徴，構造，幅，傾向，価値，欠陥 ②働き：機能，性能，働き ③効果：効果 ④意味：意味合い，意味，意義 **〈状態〉を** ①関係：関係，関わり ②経歴：　歴史，伝統	**〈様態〉** もともと，本来 **〈名目〉として** 特徴
語義10： 〈人が思考•感情などを有する〉 **文型：** 〈人〉が〈思考・感情など〉を持つ	**〈思考〉を** ①思考：確信，先入観，疑問，偏見，考え，悩み，見通し，希望，認識 ②関心：興味，関心 ③意志：覚悟，意志 ④志向：目的，目標，夢 ⑤印象：印象，イメージ **〈感情〉を** 感情，愛情，不満，好意，気持ち，警戒心，不信感，疑い，恨み，優越感，劣等感，好感，反感	**〈場所〉に** 心，胸 **〈対象〉に** 自分，相手，人，恋人，友達 **〈様態〉** 常に，だんだん，ますます，互いに，ずっと
語義11： 〈人が機会を設ける〉 文型： 〈人〉が〈機会〉を持つ	**〈機会〉を** 交渉，機会，場，交流，接触，会合	**〈様態〉** ようやく，やっと，ついに，さっそく
語義12： 〈人・もの・ことがそのままの状態を保ち続ける〉 **文型：** 〈人・もの・こと〉が持つ	**〈もの〉が** 体，食べ物，衣類，製品，金，店 **〈こと〉が** 天気，結婚生活，場，仲，間	**〈様態〉** 長く，よく，しばらく，少しは，結構／（「〜ない」の形で）長くは，とても，あまり，それほど

※この表の必須項および付加詞は主に，NINJAL-LWP for BCCWJおよびNINJAL-LWP for TWCにおいて頻度順（LD頻度5以上）の上位に見られたものである。ただし，本稿の基となる『基本動詞ハンドブック』は日本語学習者および日本語教師向けに作成されているため，それぞれの意味を捉える際に（頻度はそれほど高くはなくとも）特徴的であると著者が判断した要素も含んでいる。なお，副詞的要素は「状態」，「程度」，「陳述」等には分類せず，〈様態〉としてまとめてある。